

議事録（要旨）

会 議	第4回子ども読書活動推進計画策定委員会
開 催 日 時	令和2年11月10日（火）17:30～19:30
開 催 場 所	中央図書館3階視聴覚ホール
出 席 者	委員長 張替恵子 委員 赤羽幸子 委員 岩本恵真 委員 鈴木佳苗 委員 庭井史絵 委員 萩原敦子 委員 三原 忍 委員 若槻義隆 委員 勝又隆二 委員 福島文昭
事 務 局 出 席 者	図書館長 目澤弘康 統括指導主事 小澤泰斗 中央図書館 前田奈緒子 中央図書館 後藤千春 中央図書館 飯田香代子 中央図書館 吉富静枝
配 布 資 料	次第 資料1 第3回武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会 議事要録（案） 資料2-1 第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画 中間まとめ（案） 資料2-2 第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画 中間まとめ概要版（案）
議 事	<p>（1） 第3回議事要録（案）の確認について</p> <p>【事務局】（資料1） 事前にいただいた修正やご意見等反映した資料を配布している。確認いただき、承認の後、ホームページにて公開する。</p> <p>（2） 第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画中間まとめ（案）について</p> <p><委員との質疑回答></p> <p>【事務局】（資料2-1の説明） 中間まとめ（案）をご提示する。本日のご議論を受けて修正し、第5回策定委員会で再度確認いただきたい。章ごとに説明する。（第1章の内容説明）</p> <p>【委員長】第1章について、委員の皆さんからご意見をたまわりたい。 1ページ中央に「平成30（2019）年」とあるが、「2018」の間違いではないか。</p> <p>【事務局】訂正する。</p> <p>【委員】2ページ「2. 計画の位置づけ」に「生涯学習計画」がない。「生涯学習計画」には「図書館基本計画」との関連が描かれているが、今回の計画において「生涯学習計画」の位置づけはどうか。</p> <p>【事務局】「子ども読書活動推進」という視点から見ると、「生涯学習計画」における直接的な記述が確認できなかった。図を盛り込み過ぎると見にくくなることから今回は省いている。</p> <p>【委員長】他に意見がなければ第1章については以上とし、先に進める。</p> <p>【事務局】（第2章の内容説明）</p> <p>【委員】12ページについて。前回の会議で、私が、保育施設が増えて50以上になっているという話をした。図書館が関わることができる施設はその通りだと思うが、正確には、待機児童対策として現在、認可保育園、認可外保育施設、企業主導型保育施設等も含めれば80弱の施設がある。したがって、1行目の「50以上」を「70以上」に訂正すると誤解がない。また、子育て関連の施設の表記について「子ども子育て支援」「子ども子育て施設」等が混在しているので、表記統一については事務局とすり合わせたい。</p> <p>【委員】第1章で「計画の対象は18歳まで」と明記されている。また、同じく第1章に、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」の改定を踏まえるとあるが、国の改定のポイントの1つは高校生の読書離れである。これらの視点からみると、第2章で高校生に関する記述が少ないのではないか。まず、昨年度のアンケート調査の対象に高校生が入っていないため、武蔵野市の高</p>

校生の不読率のデータがない（14ページ）。また、4ページの①「図書館の資料整備と貸出」で、整備ではヤングアダルトが出てくるが、貸出では児童書のみでヤングアダルトのデータがない。そのようなところが散見される。

市立の学校は小中学校だけなので、高校を把握し連携することが難しいということは想像できる。だからこそ市立図書館の役割が大きくなる。調査対象に高校生が含まれないため、課題に高校生の具体的な数値が少ないという理解でよいか。そうであれば、次回調査に高校生を入れた方がよい。国の指摘している課題を下敷きにして今回の計画策定というのであれば、高校生のデータ分析が少ないことは課題である。

【事務局】ご指摘の通り、調査の段階で高校生への意識が少なかったことは課題であったと認識している。今回調査の対象としていなかったことでデータがないことはそのとおりである。ただ、今回の計画では高校生への対応も含めて施策を考えている。次の計画の際には、高校生世代を意識して実態把握にも取り組んでいきたい。

【委員】そのことを課題に書くわけにはいかないのか。もう1点、24ページ「学校図書館を支える人材配置の不足」に「学校図書館に学校司書がおらず」と書かれているが、小中の現状であれば、「小中学校の」と入れた方がよい。

【事務局】第2章の「現状と課題」に委員のご指摘を入れるようにしたい。

【委員長】関連して「ヤングアダルト」という言葉の定義が曖昧である。普通は「中高生」、もう少しひろく捉えると大学生の下の学年まで入る。たとえば23ページ「ヤングアダルト世代の読書離れ」の中に「中高生」という記載があるが、同義語として使っているか。

【事務局】武蔵野市では「ヤングアダルト」は中高生として捉えている。

【委員】24ページ「学校図書館に求められる『読書センター』『学習センター』『情報センター』の機能」と、ここだけ「機能」で切られている。他の項目は「離れ」「不足」等、課題を指す語があるので、もう一言付け加えるのはどうか。

【事務局】表記が揃うように訂正する。

【委員】関連して、委員長のご指摘の「ヤングアダルト」だが、これは図書館業界の言葉かと思う。一般の方が読んでもすぐにわからない。海外ではもう少し上の年齢層を含んでいるような捉え方もある。「ヤングアダルト」の注釈を入れるとよい。

【委員長】「ヤングアダルト」の注釈をお願いしたい。

【委員】23ページ「4. 現状と課題のまとめ」で見出しのほとんどが課題についてのように見える。中身は現状のことも書いてあるが、見出しを「現状と課題」としていいかどうか。また、23ページ「子どもたちへのインターネット、スマートフォンの急速な普及」だけ、タイトルが現状を表すものとなっている。24ページの冒頭に書かれているような、何が不十分で何が求められているのかをタイトルにした方がよい。

【委員長】現状を記述し、課題が見えてくるという流れ自体は、比較的読みやすい。

【委員】たとえば4のタイトルを「現状にもとづく」あるいは「現状を踏まえた課題のまとめ」とした方が内容に合うのではないか。4の小見出しのほとんどが課題を表すものであり、重みづけはどちらかというところ「現状」より「課題」の方にあるように思われる。

【事務局】23、24ページは課題を示したいという意図があり、現状がこうなのでこれこれを課題として認識しているという構成である。4のタイトルと、「子どもたちへのインターネット、スマートフォンの急速な普及」という小見出しについては、次回に向けて表現を推敲する。

【委員長】「子どもたちへのインターネット、スマートフォンの急速な普及」のあとに『への対応』を追加するなど考えられる。

【委員】4のタイトルの下の文章、「以上より、武蔵野市の子ども読書活動推進の現状と課題は」とあるが、読書の現状であって推進の現状ではない。「推進」は削除の方がよい。

【委員長】読書活動の現状とともに、それにかかる推進の現状も入っているように思う。

【委員】そうであれば問題ないと思う。

【委員長】25ページ「子どもの読書活動に関わる人材の拡大」の4行目、「また、子どもの心理への理解、読み聞かせの効果的な方法など、知識やテクニックを身につける必要があります」について。「心理」への理解も必要だが、大きな意味でいうと、「子どもの発達や発達段階」とする方が表現としては適切ではと思う。

また、図書館員の技能・技術として、通常は読み聞かせ・お話・ブックトークの三つが習得すべきものとして挙げられる。ここでは「読み聞かせ」だけを挙げているが、この三種が必要ということを計画のどこかで触れていただきたい。

もうひとつ、「知識やテクニック」の「テクニック」という言葉が、小手先の響きがある。「技能」または「技術」に置き換える等、基本的なことを理解した上でどう表現するか。検討いただきたい。

【事務局】誤解のないように適切な表現方法に修正していく。

【委員長】他になければ、3章の説明をお願いしたい。

【事務局】（第3章の内容説明）

【委員長】第3章の説明を受けて質問や意見はいかがか。

【委員】27ページ「3. 基本方針」の3つ目「情報を適切に収集し、活用できる力を育む」の文章で、「子どもの年齢、発達に合わせて、この能力を段階的に身に付けられるように」とあるが、身に付ける方法が具体的に想像できなかった。何か具体案はあるか。

また、26ページ「1. 基本理念」の表記に句点が多い。「読書を通じて、豊かな心を培い」はつなげてよいと思う。「自らを学ぶ力を身に着けることで生きる力を育む」もつなげてよいと思う。「子どもたちが」の後に点をつけるかつかないのか、何にかかるのか強調したほうがよい。

「2. 『読書』の捉え方」の枠内で、「知的好奇心を満たすために」ではなく「知的好奇心を満たすための」の方がよい。

【委員長】どちらも成り立つ表現かと思う。句点は微妙である。いかがか。

【委員】句点が多すぎると感じた。

【委員長】「子どもたちが、読書を通じて豊かな心を培い、自らを学ぶ力を身に着けることで、生きる力を育む」ではいかがか。

【委員】「読書を通じて」が「豊かな心を培い」にかかって、さらに「自らを学ぶ力を身に着ける」にかかって、最後に「生きる力を育む」にかかっており、「読書を通じて」がすべてにかかっているということで、句点を使っていると理解した。

【委員長】読書を通じて豊かな心を培うのと、学ぶ力を養うがあり、その2つを合わせて生きる力を育む。句点を置いた方の気持ちは見えてきた。

【委員】「子どもたちが、」の句点は削除できる。

【委員長】検討願いたい。

【委員】「2. 『読書』のとらえ方」の文章の2行目、「あるいは」は、前文の「読書のかたちは、読み物的な楽しみのための読書（目的としての読書）や学習のための、調べるための読書（手段としての読書）」ではなくて、という捉え方をされる恐れがある。両方読書であるなら、「また」の方がよい。

【事務局】表記を検討する。

【委員】27ページ基本方針の3つ目「情報を適切に収集し、活用できる力を育む」で、「子どもの年齢、発達に合わせて、この能力を段階的に身に付けられるように支援していきます」との記載は大変ありがたい話。これは子どもたちがこ

れからしっかり身につけていかないといけないものである。ただ、具体的な方策についてはこれからと思われる。活用スキルだけではなく、情報モラルや情報に対する理解、思考判断力も含めて、系統的に、小中高を通して支援していただくと大変ありがたい。インターネットの活用が急速に進む中で、追いつけていないのが正直なところであり、第4章の取組に関わるが、図書館がどういった支援・学校連携ができるか。必要なものは残していただき、具体的な方策はこれから一緒にやっていきたいのでよろしくお願ひしたい。

【事務局】「使い分けられる能力」について、インターネットからの情報は断片的で切り取られたものが多い。裏付けされた情報なのか、信用性がある情報なのか、情報にも違いがある。そのため、具体的な取組として例えば、高校生向けのオンラインデータベースの使い方講座などを考えている。オンラインデータベースとは、出版社等が精査した信用度の高い使える情報である。インターネット上の情報を見る時、誰が発言しているのか、新聞社が掲載している情報なのか等、ソースの重要性なども伝えられるとよい。

また、同じ情報でも、書籍では体系化されて起承転結や原因・結果が筋立てられた知識が提供されることが多い。そうした、インターネットとは違う情報入手の大切さを伝えていけるとよいとも思う。図書館でできること、学校でできること、考えながら取り組んでいきたい。

【委員】今、館長から説明があったのは、34ページの「④読書活動における情報活用能力の育成」の一番下の取組「市立図書館における情報活用に関する子ども向け講座の実施」のことである。第4章で議論した方がよいかもしれないが、その上に記載されている取組「学校におけるメディアリテラシーの育成」の概要の記述について、これでよいかご意見いただきたい。

【委員長】私の方から27ページ基本方針の3つ目「情報を適切に収集し、活用できる力を育む」で気になった箇所として、電子のメディアリテラシーを身に付けることは大切だが、その前段階の幼い子どもたちにとっては、長時間スマホ等電子メディアに接触することで視神経や脳の疲労につながることは、一般的に共有されている。そのことを子育て世代の親たちに啓蒙することも含まれているか。

【事務局】子どもたちに直接啓蒙することをイメージしていた。確かに、保護者への対応も含めて、小さい子どもたちへの影響も意識して取り組んでいかなければと感じた。

【委員】何歳頃から情報機器に触れさせるべきか。脳にとっても10歳まではたくさん本を読ませることがよいと学校の保護者会で先生がおっしゃっていた。「本を読むときは全力で脳を使うが、テレビを見ているときは半分しか使わない、眠っているときと同じくらい」というお話も、川島隆太教授のお話で聞いたことがある。そうであればできるだけ情報機器に触れさせないようにするべきか。あるいは触れさせるとしてもどの程度の時間が適切か。ただ、10歳まではたくさん本を読むのがよいのではないかと思う。情報リテラシーも大事だとは思いますが、図書館の方で、10歳までは読書のすすめ方を考えるのが一番の役割ではと思う。

【事務局】ご意見いただいた通りと考えている。知の根っことして読書に親しむ習慣があり、その上で情報、電子機器の使い方を身に付ける。図書館はただ紙の本があるだけの施設ではなく、課題解決に役立つことが1つの使命である。最新の情報をきちんと仕入れて理解して、それをどのように使いこなしていけるか。子どもの発達段階に応じて使命を果たしていきたいと考えている。

【委員】読書の問題、情報リテラシーの問題があり、読書に情報リテラシーが含まれるという解釈ができるということで、基本方針の3つ目の項目が入っているのは、大変よいし、必要だと思う。ただ、あくまで読書活動推進計画なので、図書館の役割全体ではなく読書活動というところに焦点を合わせるべきである。読書と情報リテラシー教育は図書館と大変関わりの深いジャンルだが、読書という枠組みで考えるのであれば、基本方針の3の見出しは「収集」ではなく、「読み解き」ではないか。情報を正しく読んでいく、メディアの特性に応じて読むこと

など。その結果として、使い分けも入ってくる。情報リテラシー教育の全部を読書活動の枠の中でやるのではなく、情報を適切に読み解いて活用することに焦点をあてれば、先ほどのオンラインデータベース講座なども含まれてくるのではないか。

【委員長】「読解」という言葉で入れるとするとどうなのかということはあるが。

【委員】「読解力」とはまた異なると思われる。

【委員長】こちらについても検討いただきたい。

【委員】前回までの議論で、「基本的な考え方」が「基本方針」になったと思う。前回示された資料では、市立図書館がやることが示されていた。今回示された基本方針が、基本理念から引っ張ってきているというのは理解できるが、前回と比較して内容が抽象化している。今回、このように変更した経緯を確認したい。

【事務局】前回、基本方針で示した項目について、より具体的な施策のカテゴリーとして整理し直した。第4章をご覧くださいと、前回基本方針として挙げていた「すべての子どもの発達段階に応じた読書活動支援」が、施策体系の「1.」となり、前回基本方針の2つ目が「2. 市立図書館と学校、関係機関の連携による推進」、3つ目が「3. 子どもの読書活動に関わる人材の育成・支援体制強化」として入っている。

【委員】概要版では今説明されたことが書いてあるが、本編の施策体系図だけみると意図が伝わりにくい。表現方法を検討してほしい。変更点は理解した。

【事務局】概要版の見開きは、今の私の説明の形になっている。本編28・29ページの第4章の体系図を、中身がわかるような形に修正する。

【委員】細かい点だが、基本方針1つ目の「あたたかい声」の「あたたかい」をひらがなとし、一方で2つ目の「分からない」を漢字とした意図を聞きたい。

【事務局】「あたたかい」は、家庭のなかで子どもに語りかけるというイメージとの合致からひらがなとした。「分からない」は表記のイメージができていなかったもので、表記について再度検討する。

【委員】34ページ「④読書活動における情報活用能力の育成」では「情報活用能力」「メディアリテラシー」という言葉が出てきている。27ページでは、情報リテラシー、インフォメーションリテラシーに該当する話が出ていた。これらの概念の定義は異なる。概念が混在しないように検討いただきたい。全体を通して統一して使うのがよいので、内容から見て、おそらく「インフォメーションリテラシー」がよいのではと思う。

30ページ「1. すべての子どもの発達段階に応じた読書活動支援」の文章の一番下の段落に「すべての子どもが読書の楽しさに触れ」とある一方で、26ページの「2. 『読書』のとらえ方」では、楽しみだけではなく書いており、内容にずれがある。楽しさに加えて役に立つということが含まれて「読書習慣を身に付ける」とする方が首尾一貫する。どういう用語を使うかという課題はあるが、役に立つという意味の何らかの表現が入るとよい。検討いただきたい。

【事務局】1点目、概念の定義および表記を統一して次回までに整理する。2点目「役に立つ」についてもご指摘のとおり表現を検討する。

【委員長】第4章に入る前に館長から説明はあるか。

【事務局】第4章については、すべてを説明することができないので、主に新規拡充の取組のみ説明したい。

【委員長】説明をお願いしたい。

【事務局】（第4章の内容説明）

【委員長】説明を受けてご意見・ご質問はあるか。

【委員】先ほどから課題になっている34ページ「④読書活動における情報活用能力の育成」の取組「学校におけるメディアリテラシーの育成」について。新しい学習指導要領で学校図書館には「情報センター」「読書センター」「学習センタ

一」の役割が期待されているが、それは27ページの基本方針3つ目のテキストにある「目的に応じて本やインターネットなど多様な情報媒体を使い分けられる能力」である。その視点から見ると、現在の計画内容はインターネット活用に偏りすぎているのではないかと感じる。図書館の役割として、責任ある裏付けのある確かな情報を調べていく大切さを身に付けることが、学校の読書活動における情報活用能力の育成になると思う。インターネットやメディアリテラシーに流れてしまうと、ますます本を読まなくなり、調べものはインターネットでと安直に、切り取られた危険な情報に流れやすくなってしまっているのではないか。これらの違いについてしっかりと図書館の立場で支援いただけるとありがたいので、文言を検討いただきたい。新聞も情報活用の一環なので、「新聞の読み方」等、しっかり読むことによる情報活用能力の育成を書いてもいい。

これから1人1台タブレットが入ってくるのが大きな話題であり、早速考えていただいているのは本当にありがたいが、33ページの1番上の取組「学校でタブレットなどを使い図書館のHPの使い方を学ぶ出前講座」はどのように実施するのか、検討いただきたい。出前講座はよいと思う。

【委員】今の委員からご指摘の「学校におけるメディアリテラシーの育成」の概要の文章で、「インターネットだけではなく図書や新聞などの資料で確認するなどして、複数の資料から様々な情報を得るとともに…身に付けさせる」は、委員のご指摘と違ってないと思う。前段の「児童・生徒がインターネットの情報の特性を理解するために」の部分に違和感があるので修正いただきたい。委員の主旨はそのように理解してよいか。

【委員】その通りである。

【委員長】インターネットに偏る印象を受ける。文言の検討をお願いしたい。

【委員】30ページの「(1)乳幼児期における取組」と38ページ「(2)市立図書館と学校、関係機関の連携」など、第4章の番号の見出し文字の大きさが合っていない。整理していただけるともっと見やすい。

【事務局】ご指摘の通り、修正する。

【委員】31ページの上から3つ目の取組「0123への返却ポストの設置の検討」とある。子育て家庭を支援するために近くに返却できるようにしたいというのが主旨だと思うが、新規の取組に入っているのはどのような意図か。

【事務局】図書館の本を0123の利用者に借りやすく返しやすくすることで、家庭での読書活動を支援できないかという主旨である。

【委員】身近なところで返しやすいということであれば、児童館もぜひ入れていただきたい。0123は東地域と中央地域にあるが西地域にはない。市全体で施策を考えるのであれば、桜堤児童館をぜひ加えてほしい。

【事務局】地域のバランスを考えたい。

【委員】32ページからの「(2)小中学生への取組」で、中学生の内容も少しあるが、学校との連携が小学校に重点を置いているような印象がある。中学生への支援を検討してほしい。たとえば35ページ「⑤新しい発見、知的好奇心を刺激する機会の提供」は小学生対象となっている。関連して、中学生の不読率を上げるための取組があるかどうか。36ページの「(3)青少年への取組」の中に中高生対象の取組が入ってきているが、項立てを変更するかどうか。

【事務局】「(3)青少年への取組」では、市立の学校だけでなく広く市内の中高生世代を含めて対象としている。「(2)小中学生への取組」は市立の小中学校への取組になってしまうので、中学生の不読率、広く中高生への取組となると、今の項立てでは「(3)青少年への取組」に入る。

【委員長】どちらかに分けることは可能か。

【事務局】あるいは、この青少年の取組にあるものを、再掲という形で小中学生にも記載させていただく方法は可能だと思う。

【委員長】整理をお願いしたい。

【委員】35ページの「⑦配慮を必要とする子どもに向けた支援」について。

「図書館に来館することが難しい児童、生徒、保護者」とあるが、取組をみると、そもそも読むことに困難を持っている子どもたちへの支援はないのか。今の文章では、図書館に来られない子どもだけをサポートするように捉えられる。来ていても読めない子どももいる。学校の立場としては、そういった子どもたちへの支援も重要だと思う。

また、「配慮を必要とする子どもに向けた支援」が幼小中とそれぞれ繰り返されているが、項目を別立てにすることはできないか。幼小中、青少年全てに共通する、読むことに困難を抱えた子どもたちへの支援としてディスレクシア等含めて、幼少中でどんな症状があってどんな資料が適切か、そういった情報を図書館が支援してくれると大変ありがたい。

ユニバーサルデザインでは色弱の傾向にある子どもへの対応として赤はあまり使わないようにするといった情報も、図書館ならではだと思ふ。

それらをまとめて、全世代への支援として、図書館に来られない子どもだけでなく、読むことに困難を持っている子ども等含めて、学校への支援や図書館資料の充実などのサポート、情報提供を記載する方が、同じことが何回も出てくるよりよいと思った。

【事務局】例えば1（4）として入れるなど、整理し直す。

【委員】0123の返却ポストについて、武蔵野市では移動図書館はどのくらい実施しているか。移動図書館が月に1回、0123に来る等は検討できないか。

【事務局】武蔵野市では移動図書館は実施していない。3つのしっかりとした図書館を置くこと、武蔵野プレイスも吉祥寺図書館も駅前立地としていること、返却のブックポストを東急REIホテルや武蔵野芸能劇場など駅前の施設に置くことで利便性を高めるなどのコンセプトで運営している。

【委員】図書館に親しみを持つために、まず絵本にたくさん触れられたらという思いがある。図書館から読み聞かせに来ていただいた時に、多めに絵本を持ってきていただいて、貸出も返却も0123でできると、もっとたくさん本がある市立図書館に行ってみようというきっかけになるのではと思う。

【委員長】前回の委員会にもその話題は出たが、関連施設へ市立図書館からの本の団体貸出についていかがか。

【事務局】団体貸出について、方法を検討したい。それぞれの施設と話し合いを進めて相談していきたい。

【委員】24ページの現状と課題について、「学校図書館を支える人材配置の不足」のところで、最後の段落に「学校図書館への学校司書配置を進めていくことが必要」と書かれている。ところが、40ページの第4章に「学校司書」の記載がない。ここの記載は図書館サポーターの補充のことか。

【事務局】現状と課題の「学校司書」は「図書館サポーター」の意である。

【委員】図書館サポーターが学校司書ということか。

【委員】そのような趣旨である。誤解を招く記述であるので修正した方がよい。図書館サポーターの時間を充実させて、先生と同じ勤務時間で働いていただくようにするが、そうすると「サポーター」という名前がふさわしくない、新たな名前を付けてはと考えている。この書き方では学校図書館司書、司書教諭の配置と勘違いする記述であるので、修正していただきたい。

【委員長】司書教諭は配置されているのか。

【委員】司書教諭は任命されている。

【委員長】「サポーター」という言葉だと、中心的に動くというよりヘルプする意味が強いので、もう少し主体的に、時間も長めに働けるような方向性に変えていくということか。

【委員】そうである。

【委員】40ページの取組「学校図書館サポーター制度の改善」の最終行「職名の変更を検討します」が意味することが理解できた。

【委員長】予定されていた議事は以上である。本日の議論を踏まえて事務局の方

で加筆、修正等お願いしたい。次回の策定委員会において委員の皆様にも再度確認
いただく。よろしくお願いしたい。

2 その他

(1) 日程調整

【事務局】

*日程調整

第5回 11月25日(水) 17時半より 中央図書館2階

第6回目は2月予定

【委員長】以上で第4回子ども読書活動推進計画策定委員会を閉会する。

(以上)